



2009
平成21年

3

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。
お問い合わせ・ご意見は狛江市地域活性課へ

発行 ● 狛江市地域活性課
〒201-8585 狛江市和泉本町1-1-5
☎ 3430-1111 FAX3430-6870
Email=wacco@city.komae.lg.jp
編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press
〒201-0012 狛江市中和泉3-2-16
プランツベルツ201
☎ 3430-6617 FAX3430-6743
Email=wacco@k-press.net

都市化につれ開設

次代の狛江っ子育む



1954年 狛江小学校の運動会で遊技を披露する狛江幼稚園の園児

幼児教育

農村地帯だった戦前の狛江

では、田植えや稲刈りなど農家が忙しいときに子どもを預かる農繁期託児所が各所に開設された。戦後になって、昭和29年に第1号の幼稚園と保育園がオープン、42年には初の町立保育園が誕生した。その後も都市化の進行に歩調を合わせるように、働く親をサポートし、幼児教育の核となる幼稚園、保育園への関心と需要の高まりにこたえて、市内に次々とオープンした。現在、市内の幼稚園は私立4園、保育園は市立6園、私立3園を数える。

※本文中の住所は現在の住居表示です。



楽しかった農繁期託児所

吉岡喜多子さん（86歳・東和泉）の話
女学校を卒業して、農協の前身の狛江村信用販売購買利用組合に昭和14年に入りました。田植えなど農家が忙しい時期には小学校やお寺、大きな農家などに農繁期託児所が開設されました。組合の職員も子どもたちの世話をしました。私は狛江駅北側にあった狛江小学校の託児所で職場の同僚や先輩、村役場の職員などと一緒に1カ月ぐらいの間、幼児数十人の相手をしました。普段と違って「先生」と呼ばれるので、はかまを着て行きました。朝から夕方までお遊戯をしたり、歌をうたって遊びましたが、末っ子だったので、妹や弟ができたみたいで楽しかったです。



1939年 農繁期託児所 狛江小学校に開設された農繁期託児所

たです。

保母さんの確保に苦労

石井祥三さん（76歳・中和泉）の話
昭和42年に町立第1号の和泉保育園ができたとき、厚生課長の兼務で園長になりました。35年ごろからの人口増加で保育園の需要が急増し、民間の2園ではとても足りず、また乳児の保育を望む声も高かったため、公立保育園を開設することになりました。急に決まったため、施設はなんとか造りましたが、保母さんの確保に頭を痛めました。特に運営の中心になる経験者を確保するのがたいへんでした。つてを頼って自宅まで訪ねて口説き落としました。



1967年 和泉保育園 和泉保育園の旧園舎

周りはのんびりした田園地帯

藤井陽子さん（60歳・岩戸南）の話
45年に和泉保育園（岩戸北1丁目）の保母になりました。周りはまだ空き地や林で、野川が流れ、のんびりした田園地帯の雰囲気です。



1967年 和泉保育園 こいのぼりを上げる園児



1967年 和泉保育園 入園式

の定員も70人でゆったりしていました。0歳から2歳児を3人の保母で担当しましたが、作品展の時などはみんなで夜まで部屋の飾り付けをしました。隣にマンションが建つことになり、日照権の関係で52年に現在の場所に移転しました。いまは園長をしていますが、最初に赴任した園で定年を迎えるのは感慨深いです。



2009年 和泉保育園



1955年 狛江幼稚園 初の卒園生。左奥が稚津園長、右端手前が幸子さん

大学卒業後すぐに幼稚園開設

稚津一仁さん（51歳・新宿区）の話
父の雅夫は下北沢（世田谷区）で生まれ育ち、子ども好きで幼稚園をつくるのが夢でした。狛江に土地が見つかったので、昭和29年に大学を卒業してすぐ、狛江初の幼稚園を東和泉2丁目に開設、25歳で園長になりました。当時、三多摩には幼稚園が40ぐらいしかなかったそうです。開園準備のために役所などへ行くと、学生では信用してもらえず具合が悪いので、20歳のころから交際していた幼稚園の先生（母の幸子）と急きょ結婚しました。畑に看板を立てて園児を募集し



1996年ごろ 狛江幼稚園 開園した狛江幼稚園の園舎



1955年 慶岸寺保育園 親子そろって運動会

町の要請で保育園に

佐藤正仁さん（50歳・岩戸北）と佐藤仁朗（77歳・岩戸北）の話
慶岸寺の先々代住職だった辨仁が昭和29年に岩戸北1丁目に開園しました。寺では戦前に日曜学校を開いていたと聞きました。先代の辨正が学生時代から幼児教育に関心をもち、住職と相談して幼稚園の開園を計

画しましたが、どれだけ入園するか心配したそうです。スタート時の園児は3年保育で42人でした。家庭のような暖かい雰囲気を目標に、いろんなことを子どもに体験させようと音楽家や画家、踊り、自然観察など専門の先生を招きました。バンドネオンの第一人者池田光夫さんがハーモニカを教えたこともあるそうです。

ピーク時の36年の園児は192人を数えました。私は父を助けて昭和56年から幼稚園で先生をしました。園舎が老朽化したので建て替えを計画したのですが、園の敷地内に道路予定地があったため断念し、平成13年3月に閉園しました。

見たことのないものばかり

猿渡滋子さん（60歳・川崎市宮前区神木本町）の話
昭和29年に狛江幼稚園に入園しました。園舎がモダンで、ブランコなど見たことのないものがいっぱいありました。毎日楽しくて、駒井町の家から遠かったのですが、朝はみんなより早く行きました。まだ開いていなかったため、隣にある園長先生の自宅によく行きました。実家が寺だったので、西洋のお屋敷のように感じられました。初めてベッドを見て、びっくりしたこともあり



1968年 狛江幼稚園 ハーモニカを習う

画しました。ただ、当時、狛江には保育園がなかったので町の要請で保育園としてスタートすることになり、辨仁が初代園長になりました。最初は家族ぐるみで子どもの面倒をみました。翌年、第1回の卒園児は19人でした。2年後に辨仁が亡くなり、辨正が園長になり、39年に幼稚園として再スタートしました。

木登りをしてしかられた

友野昭弘さん（56歳・相模原市）の話
実家が慶岸寺の近くで精肉店をしてい

ました。父（今村昌賢）が住職のかたわら、音楽の教師をしていて、「今村まさる」のペンネームで「狛江音頭」や小学校の校歌などを作曲しました。幼稚園の歌も父が作詞作曲したもので、毎朝歌いましたが、いまでもはっきり覚えています。

輝いていた赤い屋根の園舎

松本道子さん（59歳・世田谷区成城）の話
狛江銀座で生まれましたが、幼稚園ができるというので入園しました。明るい色の壁に赤い屋根がきれいでした。周りとは違ってそこだけきらきらと輝いているようでした。最初のころは、園長と妻の幸子さんの2人が先生でした。ピアノを見たのも初めてで歌の時は、それを弾く幸子先生の指に見とれてしまいました。



1968年 狛江幼稚園 参観日に集まった保護者たち

アットホームな雰囲気

川本サヨさん（78歳・東和泉）の話
家の横が幼稚園で、子ども3人と孫を合わせました。若い園長夫妻が教育熱心で行事もたくさんあり、アットホームな雰囲気でした。園舎を使った情操教育も盛んで、そこでピアノを習った娘は、いまも自宅でピアノを教え、音楽のある生活を楽しんでいます。入園希望者が多くて、紹介を頼まれたこともあります。



2009年 慶岸寺幼稚園

たので、商売が忙しいからと慶岸寺保育園へ2年ぐらい通いました。境内にはたくさんのお木があって、よく木登りをしてしかられました。昼寝の時間はみんなと一緒に寝るのが嫌で、家へ帰ってしまっただけで済ませたこともあります。担任の先生はやさしかったけど、園長先生はちょっとこわかったですね。

写真提供・取材協力=吉岡喜多子、石井祥三、藤井陽子、稚津一仁、猿渡滋子、松本道子、川本サヨ、佐藤正仁、友野昭弘、佐藤仁朗、中野米子、加納順子（順不同・敬称略）資料=『狛江の民俗Ⅳ』（狛江市）、「創立40周年記念誌」（狛江幼稚園）